

製品名: 腸管細胞キナーゼウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab12687**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	65kDa

抗原情報

遺伝子名	ICK
別名	ICK; KIAA0936; Serine/threonine-protein kinase ICK; Intestinal cell kinase; hICK; Laryngeal cancer kinase 2; LCK2; MAK-related kinase; MRK
遺伝子 ID	22858.0
SwissProt ID	Q9UPZ9
免疫原	抗血清はヒト ICK 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 125-174

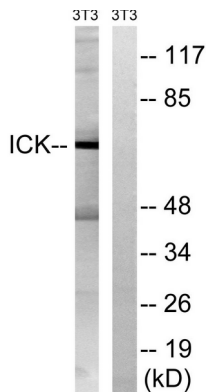
背景

真核生物のプロテインキナーゼは、セリン / スレオニンキナーゼとチロシンキナーゼの両方に共通する保存された触媒コアを持つ、

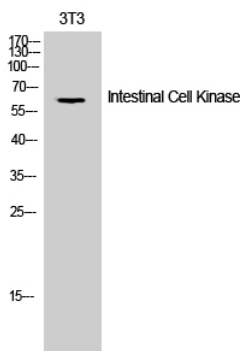
非常に広範なタンパク質ファミリーに属する酵素です。この遺伝子は、マイトジェン活性化タンパク質 (MAP) キナーゼに見られる二重リン酸化部位を有する腸管セリン / スレオニンキナーゼをコードしています。このタンパク質は腸管陰窩領域に局在し、腸管上皮細胞の増殖と分化に重要であると考えられています。この遺伝子座では選択的スプライシングが観察されており、同じアイソフォームをコードする2つのバリエーションが同定されています。 [RefSeq 提供、2008年7月],触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。補因子: マグネシウム。疾患: ICK の欠陥は、内分泌脳骨形成異常症 (ECO) [MIM:612651]の原因です。ECO は、これまで特定されていなかった新生児致死性劣性疾患で、内分泌系、脳、骨格系を含む複数の異常を伴います。機能: 複数の臓器系の発達、特に心臓の発達に重要な役割を果たす可能性があります。PTM: セリンおよびスレオニン残基が自己リン酸化されます。酵素活性化に役割を果たす可能性があります。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。CMGC Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。CDC2/CDKX サブファミリー。類似性: 1つのタンパク質キナーゼドメインを含む。細胞内局在: GFP タグ付きコンストラクトを導入した HeLa 細胞において、核への局在が観察されている (PubMed:12103360)。ラット胎児心筋細胞では、免疫染色により細胞質への局在が示された (PubMed:8570168)。組織特異性: 心臓、脳、胎盤、膵臓、胸腺、前立腺、精巣、卵巣、小腸、結腸で発現し、胎盤と精巣で最も高い発現レベルを示す。脾臓では検出されない。また、多くの癌細胞株でも発現している。

研究分野

画像データ



NIH/3T3 細胞ライセートを PBS 10 μ M 60% で処理し、ICK 抗体を用いてウェスタンブロット解析を行った。右レーンは合成ペプチドでブロッキングした。



腸管細胞キナーゼポリクローナル抗体を用いた 3T3 細胞のウェスタンブロット解析